

第 43 期会長ご挨拶

「カウンスル No.2 このままでいいですか？」

～ひとりで思う、ふたりで語る、みんなで考える～

この夏の甲子園で 107 年ぶりに優勝した慶応高校、チームを率いた森林貴彦監督は「常識を疑おう。そして考えよう」の言葉で選手を導き、「一人ひとりが自ら考えて行動する野球」を提唱されてきました。監督の思いに応じて練習に励んできた高校生の深淵としたプレーに感動し、酷暑の中で清々しさを感じる事が出来ました。

カウンスル No.2 は 8 クラブ 68 名でのスタートとなります。

個性豊かなクラブで活動されている 68 名の皆様に思いを寄せて、43 期役員会一同、力を合わせてカウンスル運営に務めてまいります。よろしく願いいたします。

No.2 の「高齢化」やそれに伴う「会員数の減少」はどうすることも出来ない傾向ですが、問題すべてが「高齢化」「会員数の減少」に起因しているわけではありません。今まで考えもしなかった変化には柔軟に向き合っていくしかありません。知恵を絞って、学んできた知識を生かして、会員同士の交流を深めて乗り越えていただきたいと思います。

しかし、今、真っ先に変えなければならないものは、私を含め、会員の皆様お一人おひとりの『意識』であると考えています。カウンスル No.2 の将来を見据え、常に危機感を持って、何事も他人事ではなく自分事と捉えて問題意識を持っていただきたい、そしてお友達で、またクラブで集まれた時には、抱えている問題や疑問、不安を率直に口に出して、みんなで考えるようにしていただきたいと思います。

ITC-J の理念やお互いに親しみ合い尊重し合う精神は、変わらないように努力しなければなりません。私たちは先輩の皆様が築いてこられた伝統を受け継いで、No.2 にしかない良さを繋げていけるよう助け合っていきましょう。これまで培ってきた力を信じて、No.2 は No.2 らしく、「学び」の組織であることを再認識いたしましょう。

カウンスル No.2 第 1 回会合で皆様にお目にかかれることを楽しみにしております。

第 43 期会長 鶴山紀子（甲南）